

第 80 号
平成 27 年
7 月号

HPに 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試してください。

山田整骨院
熊本市中央区出水 4-25-1
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

<http://www.jiko-kumamoto.net/>

結婚三十年にして 初めて男児出産

大阪支部 新 田 保 月刊健康科学 (旧西式) 昭和 16 年 6 月号

西式健康法の効果は偉大にして、他に比類なき事は最早論ずる必要ありませんが、昔から人智の力を以て最も至難とし、今尚神秘としている妊娠問題が昨年西先生の手にて神秘の扉は全世界に初めて開かれました。即ち受胎期及び此期間に於いて男女別を自由に妊娠させる方法等、全く超人的前代未聞の快報を、西先生は堂々と講演に雑誌に発表されました。人類の福音之に勝るものなし。此の外従来既に健康法として逆児、骨盤狭窄、習慣性流産、月経不順又は過多、白帯、子宮癌等の療法矯正法が、既に会員間に実行され、多大の特効を現しています。真に非常時下に於いて生めよ、殖やせよの国策に應しき福音であります。

私も此の福音に浴した一人であります。私は結婚後十三年間に五人の女児をあげ、其の間に長女第三女を失ひ、残り三人となりました。五人も女児ばかり続くからもう男児は出来ないものと断念し、三児制限を理想として養育に努めました。然し何となく嗣子の無き為めか心もとなく淋しく暮らしてをりました。処が偶々七年前御縁あって西先生の御講演を拝聴して以来、西式に帰依し、私を初め家内一同一生懸命実行致しました御蔭で、一同医者いらずの健康体になりました。更に昨年西先生より妊娠問題を拝聴し欣喜雀躍、帰宅するや妻にもよく此の講演の内容を話し互に一意専心先生の仰せ通り実践躬行、致しました。宜なる哉甲斐ありて妻は本年二月に妊娠いたしました。私は絶対男児なりと信じ、誰れに話しても『今年の記念児に必ず男児を産みますよ』と豪語していました。

妊娠後は産婆にもよく西式を説き且了解を得て、林先生著の育児の改革を贈り、読んで頂きました。経過は順調に進み、月満ちて遅るゝ事一週間、時恰も紀元二千六百年奉祝の当夜十一月十日の午後九時五十五分此の佳き日に目出度く妻は丸々太った赤い顔した、日本男児を安々と産み落としました。先づ先生の御肖像に向かって『先生萬歳有難ふ』と感謝禮拜致しました。これで二十年来の私の宿望は、先生の御蔭で立派に達成されました。私の喜びは何物にも譬へ様ありません。産婆が臍帯切断した後、兼て用意の平牀に仰臥させ二時間大気浴を行ひ、終って直ぐ温浴、冷浴と数回繰返し初湯をすまし、目方を量ると九百三十匁ありました。早速薄い毛布を敷いた平牀に枕無しに仰臥させました。時々元気溢るゝ聲で聖代にスタートせし歓喜の行進曲を奏でるのです。其度クリマグの稀釋水を脱脂綿に浸して吸はすとよく吸ひました。

胎便も澤山出ました。四十八時間経過後、妻は初めて母乳を與へました。可愛口元で乳頭に吸ひつき甘そうに飲む姿の愛らしく末の頼もしき嬉しさの余り、西先生に速達で御禮状を差出しました。其の序に先生は何時も御多忙だから御無理かと思ひましたが、折角先生の御指導に依て生まれた男児なれば名付け親になって頂き度く、命名の件を御願ひいたしました處 大慈悲御懇切なる先生は大阪の講演会に御來の砌、大変お手数を煩わし新田常喜と御命名して頂きました。只々感謝するのみであります。いざ此の上は子無き夫婦や少き方方にうんと西式宣傳して、万分の一成共御恩に報ゆるべく緊張しています

解 説

本稿の前年、昭和15年、月刊西式に西勝造先生の講演速記、タイトル「妊娠より育児まで」が発表されました。不妊の原因は記載されていますが、男女産み分け法は載っていません。雑誌の他の号に記述されているかもしれませんので探してみます。ただ、西先生のお弟子さんが詳しく妊娠法を発表されていますので、いずれ公表したいと思っております。出産法について解説してみます。逆子、骨盤狭窄については、合掌合蹠法という体操を行います。仰臥して合掌し、足裏を合わせて脚を前後に屈伸する運動で、簡単ですが安産に卓効があります。出産して直ぐには産湯を使わず、裸で二時間大気浴を行ったと書いてありますのは、胎児は母体の中では羊水の中にいる、云わば水生の状態です。分娩された後は、陸生となります。胎児の心臓は右心房から左心房へ血液を流す卵円孔が開いていますが、娩出後卵円孔は閉鎖されます。しかし、娩出後直ぐに産湯を使うと水生の状態になり卵円孔が閉鎖されず開存という病気になり易くなります。これを防ぐため正確には一時間四十分裸体を大気に曝します。温浴、冷浴と数回繰返し初湯をとありますのは、第一回、四十度の湯の中で十分温め、よく洗う。第二回、三十度の水に一分間つける。第三回、四十度の湯に一分間つける。第四回、二十八度の水に一分間。第五回、四十度の湯に一分間。第六回、二十五度の水に一分間つけて終わり、よく拭いて産衣をきせます。この温冷浴の効果は、血液やリンパ液の流れを良くして体液を中性に保ち、又、冷水と温水の交互の刺激によって毛細血管の収縮と拡大が促進され、皮膚の機能が増進され、皮膚が綺麗になります。これはお釈迦様誕生の産湯法だそうです。クリマグの希釈水のことを書いてありますが、クリマグは現在の商品名スイマグのことで下剤です。これを水で5%位に薄めた溶液を作って脱脂綿で飲ませて、赤ちゃんが母親の体内で溜めこんだ所謂宿便を出したということです。知り合いが胎便の写真を撮ったので見せて貰いましたが、真黒で凄い量でした。これが出れば新生児黄疸は出ません。この胎便を出すか、出さずに持って育つかは頭脳を含めて成長に大きな差が生じますので、親御さんは胎便排出を実行しないと損すると断言します。これ等の妊娠、出産、胎便の写真等の情報を <http://facebook.com/sizenjyutai> に載せますのでご参考にしてください。良ければいいね、をお願いします。